

建築の表層デザインの研究 —現代の日本の住宅建築における被服性—

指導教員 加茂 紀和子 教授

末松 拓也

【1】研究の背景と目的

近年、建築の表層をつくるマテリアルが多種化、ライフスタイルの多様化に伴い様々なデザインが展開している。中でも、衣服を着るように建築が薄い被膜を身に纏うような表層デザインが多く見られ、建築とファッションが関連付いているように感じる。全世界的にも建築とファッションを関連付けた展覧会¹⁾が開かれるなどの動きや建築ジャーナリズムにおいても、建築の言説に被服性を含む言葉が使われている傾向にある(図1)。本研究では、ライフスタイルに関わりの強い日本の住宅における建築家の表現として被服性を含む住宅を対象に、表層デザインの分析をすることを目的とする。

【2】研究対象と流れ

住宅作品を掲載する建築専門誌「住宅特集」の創刊より2015年までに掲載された5126作品の言説や写真、図面を研究資料とする。その中で、用途が専用住宅であり、言説に被服性を含んだ言葉(表1)が用いられた住宅、計35点を研究対象とする。次に、それぞれの言説を分析して表層の目的と役割を類型化する。また、各々の写真と図面から表層構成を分類し、それらの関係から表層デザインの形式を導出する。

【3】表層の目的/役割

研究資料の言説を分析し、被服性を含む言葉を6種類抽出した(表1)。それによって5126作品から35点を研究対象として抽出できた(表3)。さらに研究対象の言説を分析し、表層を設定した目的とその役割についてAからJまでの10種の言説項を導出した(表2)。例えば、項Aは表層の存在が外部との緩衝としての機能し、項Bは解放度合いを調節するものである。項Dは、周辺環境を住宅にまとうせて馴染もうとするものと、住宅であることを隠して抽象化するものがある。項Gは内外の情報交換のフィルターとして作用する。項Jは表層の目的に社会性を含むなど、それぞれの群の言説が設計意図を特徴づけている。

【4】表層構成の位置付け

表層の形態について、居住空間(内部)と表層の間に存在する空間の有無と、その空間の機能の有無、表層が開閉可能や入れ替え可能な可変性を元に6種類導出した(図3)。また表層をつくるマテリアルに注目し、その軽やかさを図2に示す項目によって評価した。その合計値と形態の類型を表層の構成要素として、図3において各住宅を位置付けた。



図1 被服性を含む言葉が使われた住宅数の推移

項	代表言語	抽出事例
A	緩衝	境界面の丁寧な調整、圧迫感の軽減、周囲の立ち方に基づく
B	調節	着重ねたり脱ぐことで変化に合わせる、接続方法を選択する
C	守る	固くガードされた、強い環境条件から守る、周囲に自己主張
D	カモフラージュ	自然さを纏う、住宅の様相を断ち切る、抽象的
E	統合	内部も含めて敷地全体を一つの空間、ひとつながりの緩やかな空間
F	中間領域	中間領域の豊かさ、緩やかなヴォールトで覆われたオープンスペース
G	インターフェイス	内外の絶え間ない不可避の情報交換(交感)や通過を誘発
H	室内環境	寒さや暑さを防ぐ、熱環境改善に関与、地階の環境をつくるため
I	組み合わせ	明日にでも外壁パターンを入れ替えられる、利用者に合わせて選択
J	社会性	何ら特別なメッセージを発さない、裸の立面、無味無臭な状況

住宅名	言葉	目的	マテリアル	透過性	厚み	可変性	硬度	合計
1 馬込沢の家	a+f	F+J	エキスパンドメタル	1	1	3	1	6
2 石神井公園の住宅	b+f	C+J	ホルパー(シルパー)	1	2	2	1	6
3 カーテンウォールの家	a+b	B+H	ポリエステルテント地	2	1	1	0	4
4 TS-1	c	A+G	ホルパー	1	3	3	1	8
5 WHITE CUBE	c	B+C	電動シャッター	4	3	1	1	9
6 ジュラルミンハウス	e	C	アルミパネル	4	2	2	2	10
7 鎌倉のような家	c	A+G	ナイロン	2	0	1	0	3
8 西荻窪の家	c	B+G	パンチングメタル	1	2	3	2	8
9 S-HOUSE	a	H	ガラスブロック	1	4	0	2	7
10 ナチュラルスラット	a+f	A+H+J	フレキシブルボード	3	4	1	2	10
11 簾庵	b+c	A+B	簾	1	1	3	0	5
12 千川スクリーンの家	e	B+C+G	ホルパー	2	3	4	1	10
13 台形面の家	b	D	ガラス	1	3	0	2	6
14 都市計画の家II	c	H+I	強化ビニルコーティング耐磁	2	0	1	0	3
15 F邸	d	G+H	ガラスホルパー	0	3	0	2	5
16 打越の家	a+b	E+F	ガルバリウム折板	4	0	3	1	8
17 Bhouse	a	A+F	ステンレスメッシュ	1	2	3	0	6
18 ヨウキ	b+f	D+E+J	エキスパンドメタル+アルミパネル	2	2	1	2	7
19 houju	a	H	シート断熱+ガラスブロック	3	2	3	0	8
20 Z&Z HOUSE	a	A+D	ガラスホルパー	1	3	0	2	6
21 e-HOUSE	b	A	エキスパンドメタル+ポリエステルメッシュ	1	1	3	1	6
22 AM-HOUSE	a+f	C+D+J	重層エキスパンドメタル	2	2	3	1	8
23 目黒の住処	a+b	C+G	縦線ステンレス壁	2	4	1	2	9
24 ハマの家	d	F+H	スライドスリットシャッター	4	2	2	1	9
25 T博士の家	b	H+G	壁体+サンドペブル	4	4	3	1	12
26 地中の樓閣	b	D+H	土	4	4	3	1	12
27 HOUSE TOKYO	f	D+J	エキスパンドメタル+ガラスブロック	3	1	1	2	7
28 メッシュ/アース	c	A+D	透ける空層(真鍮網+石膏ボード)	1	2	1	1	5
29 ZNZ	e	A+C	ホ	4	3	3	1	11
30 クリスタル・ブリックII	c	H+I	ガラスブロック+ALCパネル	2	4	1	2	9
31 ナチュラルストリップIV	b	A+H	断熱パネル	3	4	2	2	11
32 パラメトリック・フラグメント	c	H	アルミパネル+可動アルミホルパー	3	2	2	2	9
33 平塚の家	b	C+H	ホルパー	1	3	3	1	8
34 富ヶ谷の住宅	d	B+C	ホ	2	3	4	1	10
35 旋の家	d	B+C	ホルパー	2	3	3	1	9

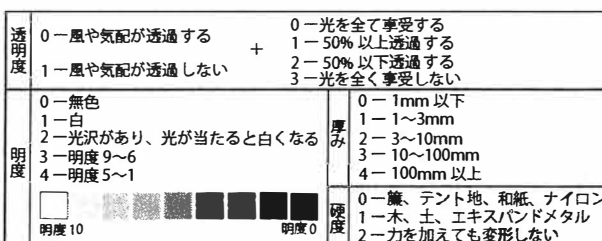


図2 マテリアルの軽やかさの評価基準

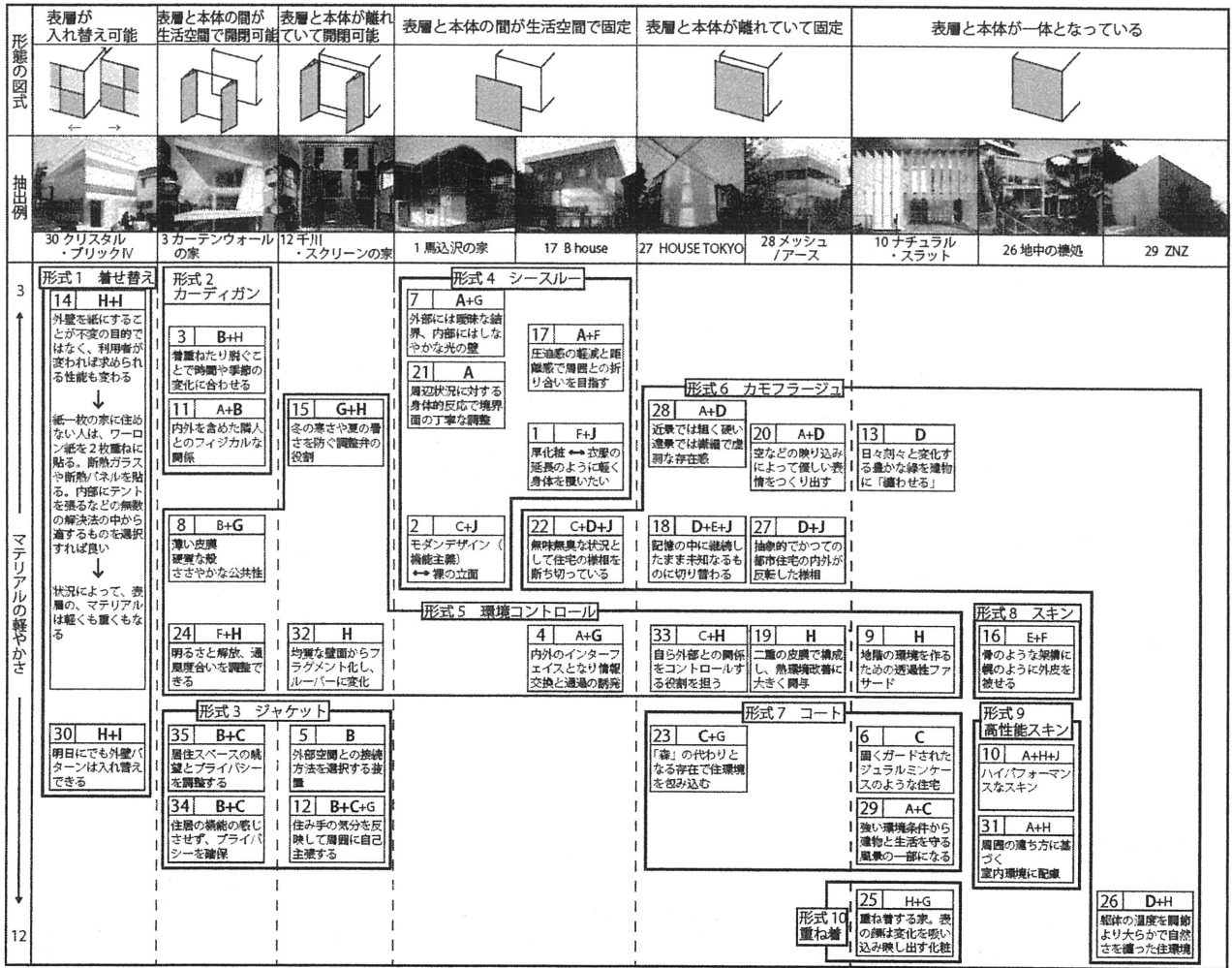


図3 表層の目的/役割と表層構成の位置づけ

【5】考察

以上から、設計者の言説、表層の目的とその役割、表層構成の関係から、表層デザインの形式としてプロットし、共通言説項に注目して10グループを導出し、それぞれの特徴を衣服のイメージになぞらえてネーミングを行った(図3)。その中から、大きな特徴がみられたものを以下に示す。形式1【着せ替え】は、表層が入れ替え可能な構成のグループで、共通項H、Iを持つ。表層の入れ替えにより、室内環境と外観イメージが変化する。形式2、3は、共に共通項Bをもつものであるが、形式2【カーディガン】はマテリアルが軽く、周辺環境とのゆるくオープンな接続の意図があり、形式3【ジャケット】はマテリアルが比較的重い傾向で、共通項Cを含み周囲に開きながら身構えようとする姿勢であるという差がみられた。形式4【シースルー】は、軽いマテリアルが固定され、共通項Jを含み特別な社会的コードを持たない表層のものと、共通項Aを含み、より軽いマテリアルで周囲との境界を丁寧に調整し、調和しようとするものがある。形式6【カモフラージュ】は、共通項Dからなり、比較的軽やかなマテリアルが多いが周辺環境をまとめて一体化するものと、共通項Jを含み、抽

象的な形をまとめて住宅に見せないように擬態しているものがある。形式7【コート】は、マテリアルは重く、共通項Cからなり、相対的には閉鎖感があるが、薄い被膜によって住環境を守るため、周囲を拒絶し過ぎる姿勢はとっていない。形式9【高性能スキン】は、同じ設計者による住宅であり、温熱環境に寄与したり、構造体も兼ねたりと、パフォーマンスが一枚でフィニッシュするような解決法がとられたものである。といったように、表層デザインの形式と共通言説項の関係からそれぞれの被服性の特徴づけている。

【6】まとめ

本研究において、日本の住宅建築における被服性のある表層デザインの形式には、設計者の言説と表層の目的とその役割、表層構成との間に一定の相関が確認でき、被服性を図示できた。また、被服性のある表層デザインは、建物と周囲との間に曖昧な境界を作り、着脱、調節、守るなど周囲との関わりをアピールをする手段になっていると考えられる。

【注】1) 2007年に開催された『スキン+ボーンズ-1980年代以降の建築とファッション』。展覧会では、概念、形態、構成、技法などを切り口に、建築とファッションに共通する特徴を視覚的に検証した。
【参考文献】1) 『新建築住宅特集』 新建築社 1986.6-2015.12